

巡回パネル展

高知に自然史博物館をつくらう



【主催】

高知に自然史博物館をつくる会

【共催】

日本ミュージアム・マネージメント学会 中・四国支部会
こうちミュージアムネットワーク, 四国自然史科学研究センター
高知みらい科学館, 室戸ジオパーク推進協議会, NPO 砂浜美術館, カルストテラス
高知県立のいち動物公園, (一社) 土佐清水ジオパーク推進協議会

【後援】

高知県, NHK 高知放送局, 高知新聞社, RKC 高知放送

この活動は、特定非営利活動法人環境の杜こうち豊かな環境づくり総合支援事業費補助金を受けて実施しています

自然史標本って、なに？



標本とは、私たちが知識・情報を得ようとしている対象の全体から、一部分を抽出したもののことで、自然史分野では採集した個体もしくはその一部を、保存可能な状態に加工したものを指します。

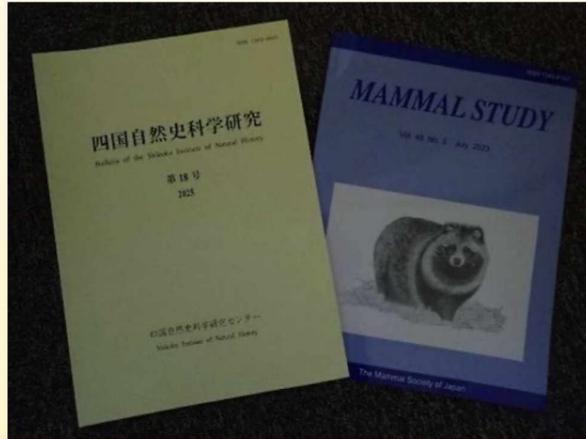


自然史研究では、動物・植物はもちろん化石や岩石・鉱物など自然界に存在するあらゆるものを対象としています。これらの対象物は、空間的および時間的に異なる様相を示すため（同じ種類でも、異なる場所・時間に採集されたものは同じではない）、ただ収集して保存すればよいというわけではなく、いつどこで採集されたのかという「採集データ」が重要となります。これを失うと、採集物の客観的な性質を把握できず、標本の価値が下がってしまいます。

“「全国的な自然史系標本セーフティネット」のホームページより抜粋”



どうして標本を残さないといけないの？



標本まで残す意義は、そこに**実在した**というゆるぎのない**事実**とともに、写真や文字では絶対に表現できない**立体構造**と**DNAの保存**にある。実物があれば、大きさ、質、重量を知ることがもちろん、顕微鏡で微細構造を、解剖すれば内部構造までを知ることが出来る。今では、DNAを取り出してその生物の系統や由来までも推定できてしまう。

富山市科学博物館ホームページ

「速度増す自然の変化 標本保存の重要性 (第34回)」



より抜粋

高知に自然史博物館をつくる会

高知に自然史博物館をつくろう

高知県には自然史科学の広範な分野を対象とする県立施設がありません。そのために、これまでに多くの標本が散逸したり、県外に流失したりしてきました。

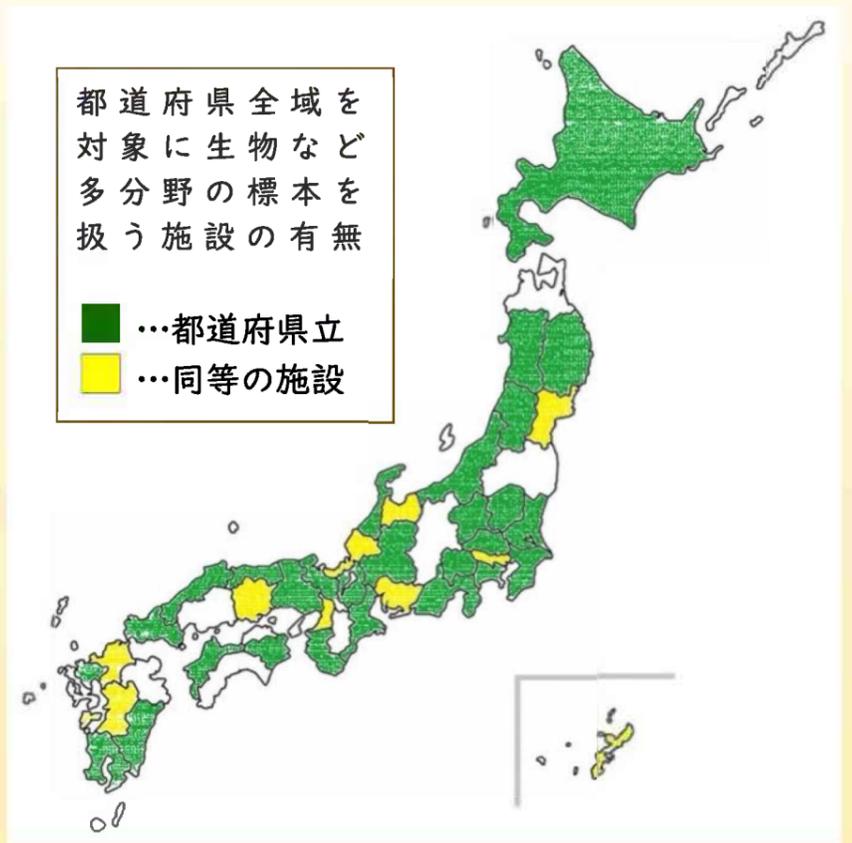
2021年度に、「こうちミュージアムネットワーク」が行った「高知県内に現存する自然史科学標本調査」によって、県内には132コレクション

(約235,000点)の標本が存在することが分かりました。しかし、その多くは保存環境が十分ではなく、また管理者の高齢化によって今後の存続が危ぶまれています。これらの標本は高知県の自然史科学情報の証拠であり、失われれば再び入手することができない貴重な財産です。

「高知に自然史博物館をつくる会」は、高知県の自然史科学情報の記録を標本とともに保存し、未来へ継承するための施設である自然史博物館を設立することを目的に活動しています。

本巡回パネル展では、県内6ヶ所の会場において、高知県に自然史博物館が必要であると伝えるために、以下の内容を紹介します。

- ・ 高知の自然史資料の現状
- ・ 高知県による自然史科学標本に対する取組の紹介
- ・ 散逸・消滅を避けるために、廃校で標本を一時保管
- ・ アンケート調査「高知に自然史博物館ができたなら、行ってみたいですか？」への、回答のお願い。
- ・ こんな自然史博物館をつくったら・・・



高知の自然史資料の現状

パネルはここからスタート

右へ右へと進んでください

近い将来、高知県産の自然史科学標本、特に生物標本の行先を模索する事態がやって来ます。これらの多くは個人収集標本で、現在の高知県の生物標本保管施設と体制の状況からみると、高知県外へ流出する可能性が極めて高いと考えられます。

流出が予想されるこれらの標本の中には、『高知県レッドデータブック 2018 動物編』で絶滅や絶滅危惧に指定されている種も含まれ、改訂したレッドリストランクを判断した証拠となる資料です。本来であれば、これらの標本は高知県が適切な保管施設と体制を組んで永続的に管理すべきと考えますが、そのような状況は高知県にはなく、維持管理はレッドデータブック改訂事業に参加した個々の調査員が担っている状態となっています。複数の調査員から、現在の保管状況を今後どのくらいの期間維持できるかを心配する声が上がってきています。

そこで、「現在高知県内にどのような自然史科学標本があるのか」、「その量や保管管理の状況はどうなっているのか」、「今後どの程度の期間、現状を維持できるのか」を調べましたので、紹介します。

本活動は「令和3年度高知県豊かな環境づくり総合支援事業費補助金」へ、こうちミュージアムネットワークから申請して実施しました。

聞き取り調査を、2021年7月1日から9月30日にかけて実施しました。

対象者は、「高知県内在住で生物標本を所有している個人、団体」としました。対象者には調査の申し入れを行い、所有している標本を直接拝見させていただきながら情報を得るようにしました。

【聞き取り項目】

所有している標本の分野、標本の形態
現在の所在地、所有者名、管理者名
採集データの有無、標本点数、収蔵に必要な体積
現状のまま維持できそうな期間、その他
さらに
標本を保管するために必要な設備を備え、
標本を適切に管理できる人材がいる
自然史博物館的な施設が高知県にできたら、
「博物館活動に協力する意思はありますか？」
についても、お聞きしました。

1. 調査先

(1) 市町村別調査先 / 18市町村・67件

(所有者別59件・コレクション別71件)

市町村	訪問数	市町村	訪問数	市町村	訪問数
高知市	24	四万十市	2	いの町	1
室戸市	7	香南市	1	仁淀川町	1
南国市	3	香美市	4	越知町	2
土佐市	3	馬路村	1	津野町	3
須崎市	2	芸西村	1	大月町	4
土佐清水市	6	大豊町	1	黒潮町	1

(2) 分類群別コレクション数 / 132コレクション (約235,000点)

分類群	件数	分類群	件数	分類群	件数
哺乳類	28	甲殻類	10	寄生虫類	3
鳥類	18	貝類	15	地衣類・菌類	2
爬虫類	9	昆虫類	18	化石類	4
両生類	5	サンゴ類	3	その他	2
魚類	8	ウニ・ヒトデ類	7		

2. 現状のまま維持できる期間

(1) 10年以上 / 48件 (約16万点)

維持できる期間が10年以上と回答された人の中には、年齢70代以上の所有者が9件含まれる。

(2) 10年以内 / 11件 (7万点以上)

うち6件が、5年以内で手放すかもしれない所有者である。

(3) 維持できなく理由

- ・所有者の高齢化
- ・保管場所の維持が困難
- ・容器の劣化
- ・適切な保管管理知識を有する人材不足等

3. 調査標本の形態別の保存空間

(1) 乾燥標本 2,294 m³ (縦34×横25×高さ2.7m)

(2) 液浸標本 377 m³ (縦14×横10×高さ2.7m) 計 2,671 m³

いずれの標本形態でも保存には紫外線・温度の対策が必要。

乾燥標本の場合、湿度・虫害・カビ発生の対策が必要。

4. 10年以内に対応の検討を要する標本の保存空間

(1) 乾燥標本 321 m³ (縦10×横12×高さ2.7m)

(2) 液浸標本 37 m³ (縦3×横5×高さ2.7m) 計 358 m³

植物の標本は、牧野植物園に約35万点収蔵されている。でも、動物の標本をしまう場所には、高知県にはない。そして、いくつかのコレクションは、これからどうなるかわからない。

多くの分野の生物標本が、高知県内にあります。

標本を持っている人々の多くが、高知県に収蔵庫ができることを望んでいます。

収蔵庫だけができて、活用できる人材がいないと、置き場所が変わるだけ！

標本を保管管理しながら活用する自然史博物館が高知県に必要なだ！

高知の自然史資料の現状 コレクションの紹介



- 標本の分野
甲殻類・貝類
- 標本の形態
貝殻標本・甲殻類乾燥標本
- 現在の所在地の市町村
土佐清水市
- 所有者の区分
個人
- 管理者の区分
個人
- 採集日の情報
おおよその記録（昭和40年代）
- 採集地点の情報
おおよその記録（土佐清水市室津沖）
- 採集者の情報
ほとんどない
- おおよその数
300点
- 収集に必要なおおよその体積
2㎡
- 現状のまま維持できそうな期間
10年以上
- 収集庫の別
乾燥収集庫
- 博物館活動に提供の意思
有り
- 随時貸出・寄託・寄贈の別
寄託
- 備考
所有者の父親が、昭和40年代に室津沖で採集した生物を標本化。外国産の貝類も含まれる。

コレクション

12



- 標本の分野
哺乳類
- 標本の形態
本剥製・仮剥製・なめし皮・骨格・筋肉液浸
- 現在の所在地の市町村
越知町・須崎市
- 所有者の区分
NPO法人
- 管理者の区分
町立博物館（寄託）
- 採集日の情報
ほとんどない
- 採集地点の情報
ほとんどない
- 採集者の情報
ほとんどない
- おおよその数
2000点
- 収集に必要なおおよその体積
135㎡
- 現状のまま維持できそうな期間
10年以上
- 収集庫の別
乾燥収集庫・液浸収集庫
- 博物館活動に提供の意思
有り
- 随時貸出・寄託・寄贈の別
寄託
- 備考
四国産個体の標本が中心

コレクション

1



- 標本の分野
哺乳類（ニホンカワウソ）
- 標本の形態
本剥製
- 現在の所在地の市町村
土佐清水市（2025年中に高知みらい科学館へ寄贈予定）
- 所有者の区分
市町村教育委員会
- 管理者の区分
市町村教育委員会
- 採集日の情報
ある
- 採集地点の情報
ある
- 採集者の情報
ない
- 数
1点
- 収集に必要なおおよその体積
1㎡
- 現状のまま維持できそうな期間
10年以上
- 収集庫の別
乾燥収集庫
- 博物館活動に提供の意思
要確認
- 随時貸出・寄託・寄贈の別
要確認
- 備考
昭和46年10月17日に下ノ加江川下流でチヌ網（漁網）にかかって死んでいた個体を標本化したことが、添付ラベルに明記されている。

コレクション

28



- 標本の分野
魚類（海水魚）
- 標本の形態
液浸標本（ホルマリン）
- 現在の所在地の市町村
大月町
- 所有者の区分
個人
- 管理者の区分
個人
- 採集日の情報
ほとんどない
- 採集地点の情報
ほとんどない
- 採集者の情報
ほとんどない
- おおよその数
300点
- 収集に必要なおおよその体積
2㎡
- 現状のまま維持できそうな期間
5年以内に、容器が壊れるかもしれない
- 収集庫の別
液浸収集庫
- 博物館活動に提供の意思
有り
- 随時貸出・寄託・寄贈の別
貸出・寄託
- 備考
藻類食性魚類標本。ホルマリン固定のままであることと、容器が劣化して割れるかもしれない、今後が非常に心配。予算と労力があれば、エタノールに代えたい。

コレクション

20

高知の自然史資料の現状 コレクションの紹介



- 標本の分野 哺乳類(獣類)
- 標本の形態 骨格・乾燥(ヒゲ・陰莖)・液浸
- 現在の所在地 高知の県東部
- 所有者の区分 高知市
- 管理者の区分 個人
- 採集日の情報 ほとんどない
- 採集地点の情報 ほとんどない
- 採集者情報 ほとんどない
- 備考 200点

コレクション

56

- 収蔵に必要なおおよその体積 60㎡
- 現状のまま維持できそうな期間 10年以上
- 収蔵庫の別 乾燥収蔵庫・液浸収蔵庫
- 博物館活動に提供の意思 有り
- 随時貸出・寄託・寄贈の別 随時貸出
- 備考 捕鯨資料の一部。他に、極地ペンギンやワニの剥製も数点あるが、状態は良くない。



- 標本の分野 海産無脊椎動物
- 標本の形態 液浸(エタノール)・樹脂による巣穴の型どり標本
- 現在の所在地 高知の市町村
- 所有者の区分 高知市
- 管理者の区分 個人
- 採集日の情報 ほとんどない
- 採集地点の情報 ほとんどない
- 採集者情報 ほとんどない
- 備考 10000点

コレクション

44

- 収蔵に必要なおおよその体積 150㎡
- 現状のまま維持できそうな期間 10年以上
- 収蔵庫の別 液浸収蔵庫
- 博物館活動に提供の意思 有り
- 随時貸出・寄託・寄贈の別 随時貸出
- 備考 研究の進捗状況によって、貴重な物は大阪市立自然史博物館へ寄贈。一般的な物は廃棄する予定。

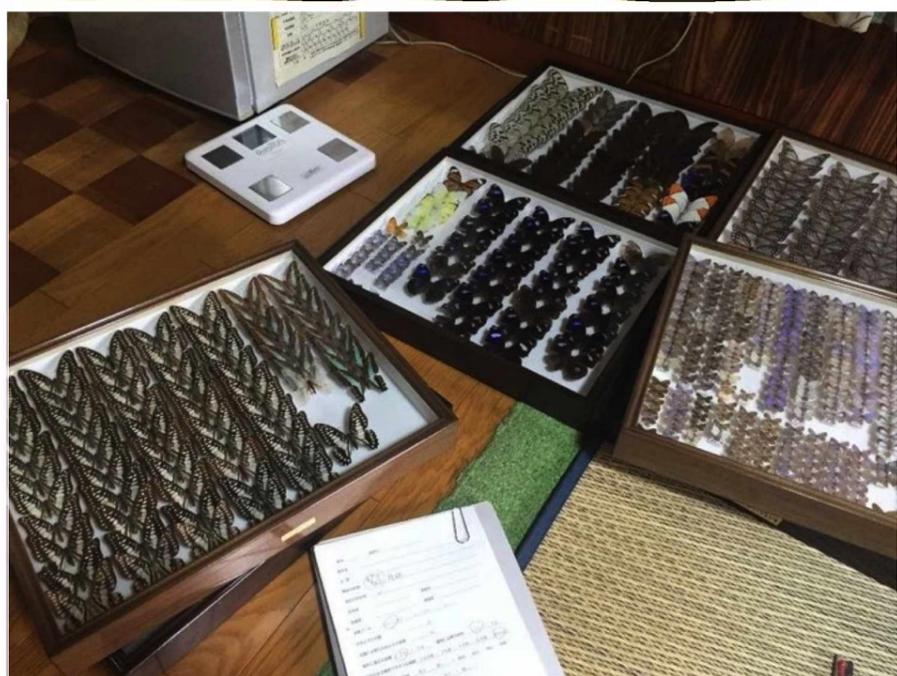


- 標本の分野 哺乳類(コウモリ)・昆虫類
- 標本の形態 植物・魚類・クモ類・化石・岩石
- 現在の所在地 高知の市町村
- 所有者の区分 高知市
- 管理者の区分 個人
- 採集日の情報 ほとんどない
- 採集地点の情報 ほとんどない
- 採集者情報 ほとんどない
- 備考 1000点

コレクション

71

- 収蔵に必要なおおよその体積 75㎡
- 現状のまま維持できそうな期間 10年以上
- 収蔵庫の別 乾燥収蔵庫・液浸収蔵庫
- 博物館活動に提供の意思 有り
- 随時貸出・寄託・寄贈の別 随時貸出
- 備考 要相談



- 標本の分野 昆虫(主に室戸岬周辺のチョウ類)
- 標本の形態 乾燥
- 現在の所在地 高知の市町村
- 所有者の区分 高知市
- 管理者の区分 個人
- 採集日の情報 ほとんどない
- 採集地点の情報 ほとんどない
- 採集者情報 ほとんどない
- 備考 50箱(大)で50箱

- 備考 龍河川およびその周辺で採集した物、高知県の他地域および外国産のものも含まれる。高知県産標本の採集時期は1950~60年代が多くを占めていた。魚類の標本に、詳細な調査を行うべきものが含まれていた。植物が多く、保管機能が整っている施設での保管に切り替えた方がよいと思われる。クモ類の標本の中に、高知県では未確認となっている種があり、詳細な調査を行う必要がある。

コレクション

58

- 収蔵に必要なおおよその体積 5㎡
- 現状のまま維持できそうな期間 10年以上
- 収蔵庫の別 乾燥収蔵庫
- 博物館活動に提供の意思 有り
- 随時貸出・寄託・寄贈の別 随時貸出
- 備考 室戸市周辺で50年間にわたり採集してきた昆虫類。主に蝶類で、迷蝶を多く含むことが特徴。

高知の自然史資料の現状



「高知県が県立自然史博物館的な施設を設置した場合の協力の意思の有無」では、多様な生物分野の標本が寄贈、寄託および随時貸出などで多くの方々から協力が見込まれることもわかりました。現在、その情報を高知県と共有するとともに、広く県民の皆様へ普及啓発して、「高知県内の自然史科学標本を今後どのように扱って行けば良いのか」について、様々な立場、地域の方々と検討を始めています。

下の2枚のパネルは、元高等学校の校舎を県立自然史博物館として整備した静岡県の話です。

「高知県でも同じことができないか?」、「高知県で実施するには、何に気をつける必要があるのか?」について、とりまとめました。このとりまとめをしてくれたのは、一緒に静岡県へ視察に行ってくれた高知大学の卒業生で学芸員の資格を持つ寺山佳奈さんと宮地 萌さんです。

ふじのくに地球環境史ミュージアムに行ってきました! レポ 1/2

ふじのくに地球環境史ミュージアムってこんなところ!

- ・廃校となった高校をリノベーションした自然史博物館
- ・静岡県静岡市駿河区にある県立施設
- ・活動理念「百年後の静岡が豊かであるために」
- ・調査研究活動を重視
- ・NPO法人静岡県自然史博物館ネットワークと連携した資料収集活動

どうして行ってきたの?

高知県には

1. 自然史博物館*がない
標本を保管できる施設がない
博物館に収められていない多くの標本
2. 廃校となった学校がたくさん
3. 廃校の利用が始まっている
むろと廃校水族館など

*自然史博物館とは・・・
地球の生成、気象学、天文学、動物学、植物学、地質学、古生物学、鉱物学、人類学など自然そのものの歴史を取り扱う博物館施設のこと

県外の事例を見学に行ってみよう!

行ってきた人代表
みやじ たらやま

高知県在住の学芸員*資格保持者
*学芸員とは・・・
博物館資料の収集、保管、展示、調査研究その他を行う専門職員

廃校を利用した自然史博物館が作れない?

ふじのくに地球環境史ミュージアムに行ってきました! レポ 2/2

偵察部隊の感想

廃校を利用すると低コストだし、多くの方が興味を持ってくれそうだね
メリットいっぱい!

でも専用の施設じゃないから防虫とか遮光とかいろいろ大変そうだよ

廃校を利用した博物館は建物にかかるコストが比較的少ない

- 収蔵物や設備に投資
- ✗ 標本の保管場所 (防虫、防湿、遮光)

教室そのままだと...
ということだよ

ここがすてき!

- 建築にかかる費用が安い
- 研究機器に投資
高性能な顕微鏡だよ
- 大きな窓から光が入る
遮光シートで日光からガード
- 湿度管理ができない
たくさんの除湿器
- 教室が広いので、様々な用途に活用できる
魚の標本がいっぱい
黒板もステキ活用!
- 学校の備品を使った展示
スタッフからの丁寧な説明
- 学校を活用することによる話題性
- 交通の便が良く様々な人が訪れやすい
目の前にバス停がある!

ここが大変そう...

- 2重扉でないので虫が侵入する
隙間を埋める工夫はしてるんだけど...
- 収蔵庫に消火設備がない
- 設備の整っていない部屋も
作業台が低くて腰が痛い...
- エレベーターがないため大きな収蔵品の運搬が大変
- バリアフリー化が進んでいない
階段が多い

高知県内で廃校を利用するならどんなところが良い?

高知には南海トラフ地震が近年中に来ることを考えると

1. 地震で津波などによる罹災の可能性が低いこと
2. 耐震整備が終了していること

さらに

3. 標本の維持管理の知識を有し、その作業に携われる人材が配置できること
4. 高知県内外からのアクセスが良いこと
5. 博物館に収められていない標本*を収められるキャパシティー

この5つが大事そうだね

*高知県内では71の標本コレクションが確認されていますが、そのほとんどが博物館ではなく個人管理のもとにあります。これらのコレクションのうち、約1割がこの先10年以内に失われるといわれています。

この5つの条件を満たした廃校を博物館に利用できるとよさそうだね

廃校を利用するなら収蔵庫を整備するなどの設備投資も必要だよ

ご覧いただきありがとうございました!

高知県による自然史科学標本に対する取組の紹介

生物多様性こうち戦略（平成25年度策定）

高知県内の自然環境の特性や生きものの現状と課題、一次産業や伝統文化など自然や生きものに囲まれて成り立ってきた県民の暮らしとその変化について紹介し、生物多様性を保全・利活用していくための理念や今後取り組んでいく行動計画などについて定めたもの（令和5年度に改訂）。

その中に・・・

第5章 高知県における生物多様性の評価と今後の課題

5-4 横断的な課題

（2）生物情報の収集・共有

今後は生物多様性の保全を促進させるため、さらなるモニタリングの実施・継続や生物情報の共有、研究体制の強化などが必要と考えられます。とりわけ、証拠となる生物標本ならびにそれらをもとに研究された論文や事業報告書などを収集・整理、保管していく体制や施設の整備、調査や研究に関わる人材の確保が求められます。（43ページに掲載）



高知県のホームページ
【生物多様性こうち戦略】

column

高知の貴重な標本を守る！

京都国立博物館が34年の生涯で約60万点の標本を収集し、40万点を超えるといわれています。なぜそんなにたくさん標本が必要なのでしょう？ それまで知られていなかった新発見を記録するとき、この標本を情報の宝庫とする、という標本を決めて見守る必要があるのです。また、ある種標本にどんな種が分布しているかを調べる際には、記録した種物のリストだけでは、そのリストの範囲と異なる種物を見逃す可能性があります。リストに掲載されている種物の中には、発見地不明でも確認することができません。このように、標本はその標本にその標本が生きていたことの証とならなければなりません。そのため高知県立動物植物標本館では、生きた標本を保存するだけでなく、肉体的標本を保存するために標本を複製し、複製で約10万点を超える標本を保存しています。

一方動物標本という点、高知県には動物園や水族館はあるものの、インゲンチックやクラゲからミズウミ、魚、鳥、へび、鳥、ほ乳類に至るまで、極めて多様な動物標本を扱う施設はなく、ましてこれらの標本は動物の標本を一時的に管理するようには対応していません。

近年、高知県内の動物標本の現状について、長年の調査が行われたところ、多くの標本コレクションが県内の各所に散在していることがわかりました。調査結果によると、これらの標本の多くは個人や民間団体の所有物であるため、収集した標本や記録が失われると十分な管理が行われなくなり、近い将来、失われる恐れのある標本として懸念がなされています。調査を行った県内の標本は、県内に存在する標本のうち7万点ほどは、今後10年以内に適切な保管施設を確保できなくなるだろうと考えています。

高知県では、県内の生物多様性の保全を考えた上で欠かせない動物植物の標本に対する対策を講じ、県民の財産である貴重な資料や標本が失われることがないように、既存の動物植物標本や水族館に加え、各地の施設などの利用も視野に入れながら適切に管理・保存を行うための仕組み作りに向けて検討を行っています。



県内各所に点在している貴重な標本類や複製

生物多様性こうち戦略に掲載されているコラム(P43)

高知県環境基本計画 第五次計画

高知県の環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための基本となる計画（令和3年4月策定）。

その中に・・・

戦略3 自然環境を守る取組

3-1 生物多様性こうち戦略の推進

PLAN4 活かす

【これからの取組】

施策4 動植物の情報収集と標本の適正管理

生物多様性の保全に必要な基礎的データを得るため、県として、関係機関などと連携し、動植物の生息・生育情報について収集、整理するとともに、県内に有する標本が県外に流出して散逸することがないように、適切な保管場所を確保します。また、これらデータベース化と実物資料を適切に活用する仕組みを構築することにより、県内での研究人材の育成や展示による公開を推進します。（60ページに掲載）



高知県のホームページ
【高知県環境基本計画】

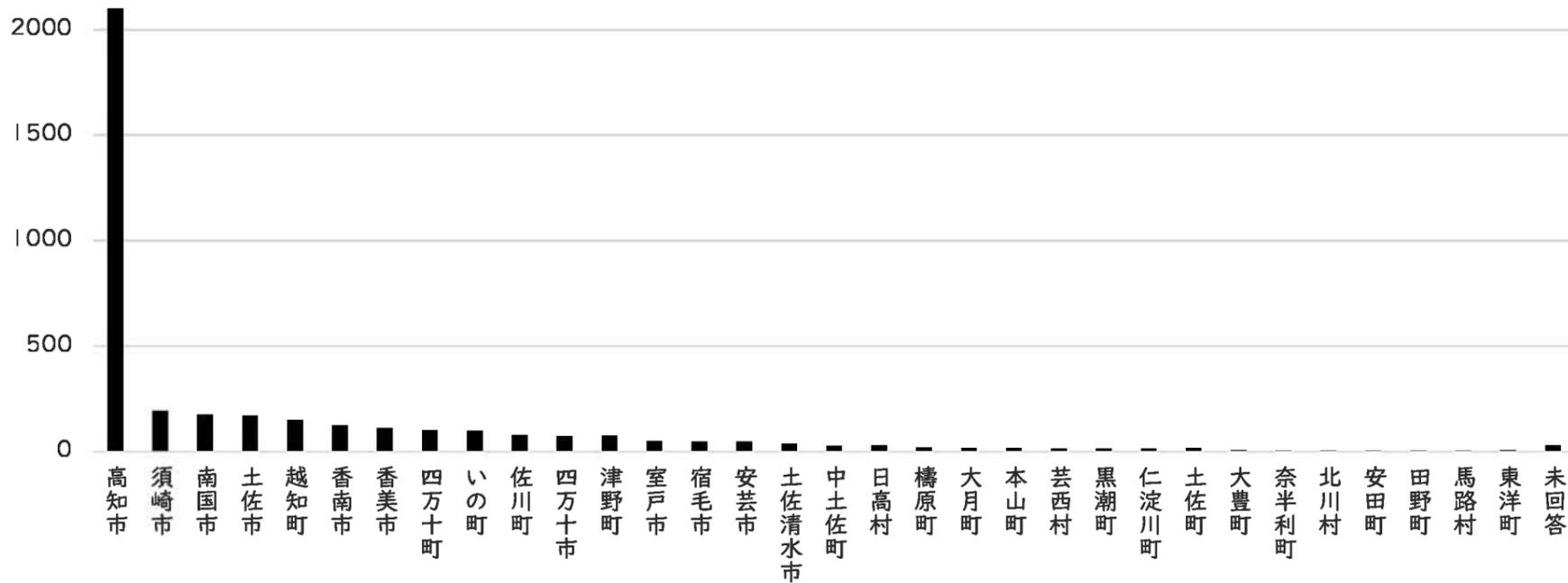
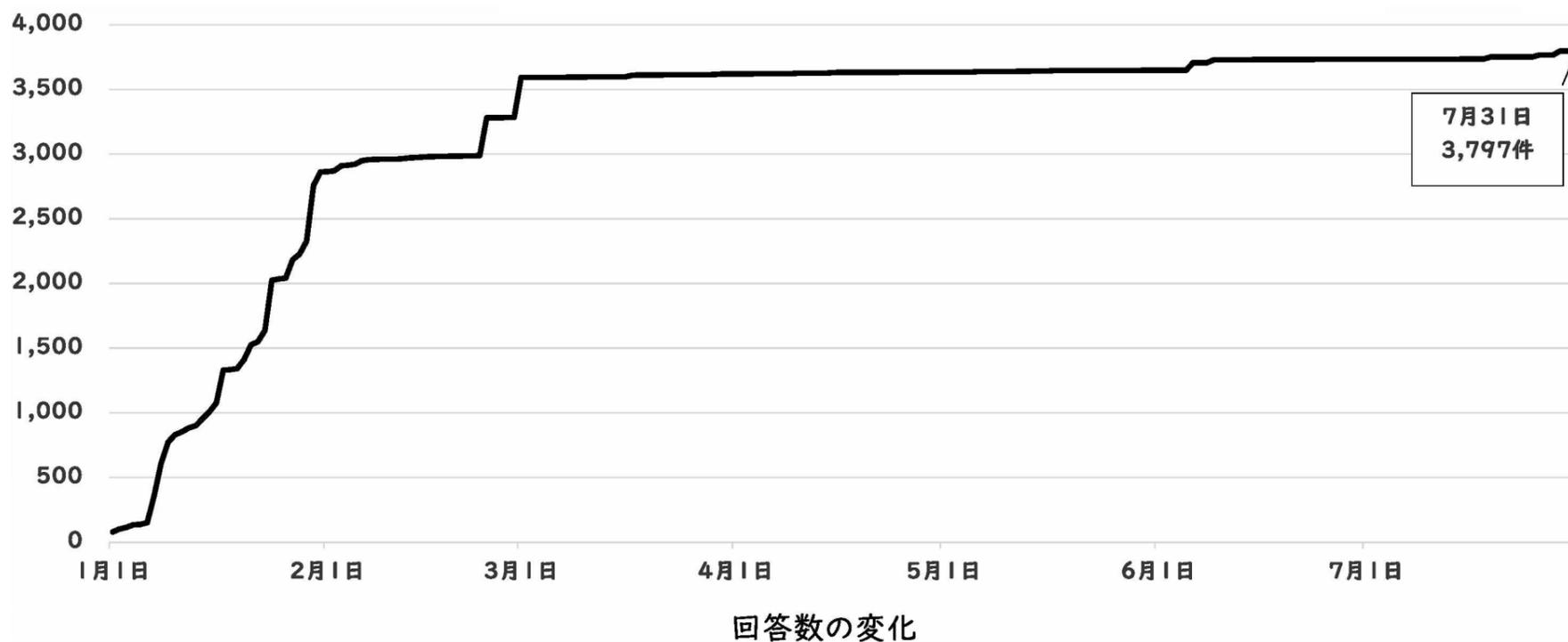
高知に自然史博物館をつくる会から、高知県の取組が推進されることを期待して「標本の適切な保管場所」には以下の要件が必要であると伝えました

- 高知市中心部より、車で1時間以内に着ける。
- 津波による浸水を避けられる施設（浸水エリア外もしくは高層階）。
- 高層階の場合は、エレベーターが使える。
- 耐震補強済みである。
- 2トトラック程度の大きさの車が侵入できる敷地にある。
- 水道が使える。
- エアコンもしくは除湿器が設置済みもしくは設置可能であること。
- 日光を遮断するカーテンなどを設置できる。
- 紫外線カット照明設備が使える。
- 標本棚の転倒防止措置（床にビス止めなど）ができる。
- 標本管理者が、施設内に常駐もしくは近在できる。
- インターネット環境が整っている。

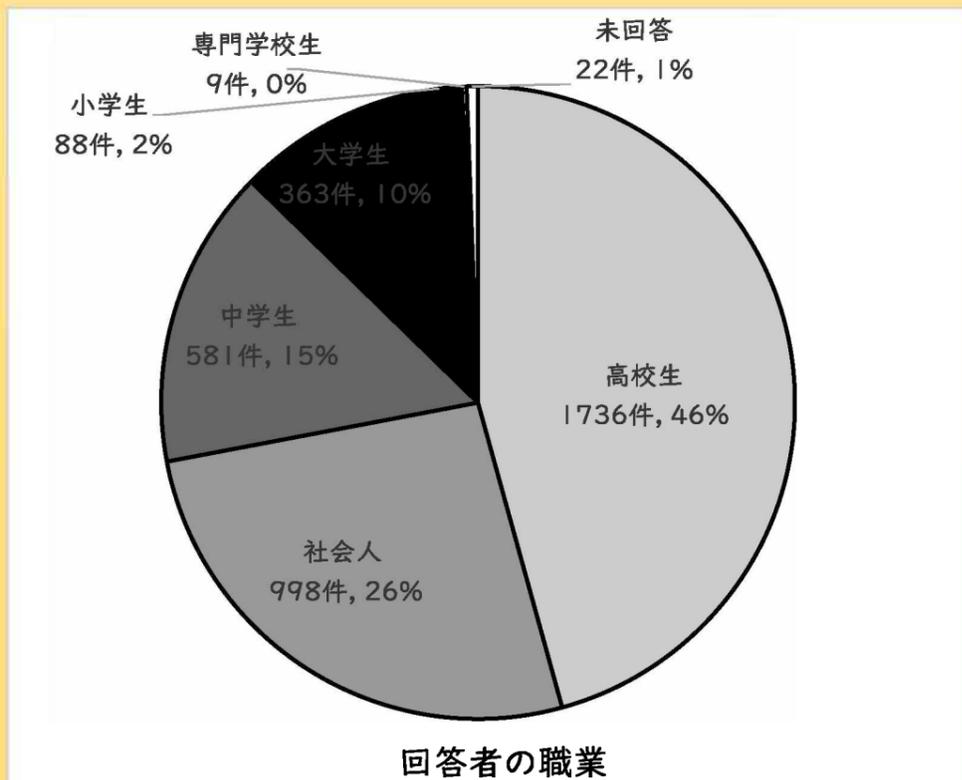
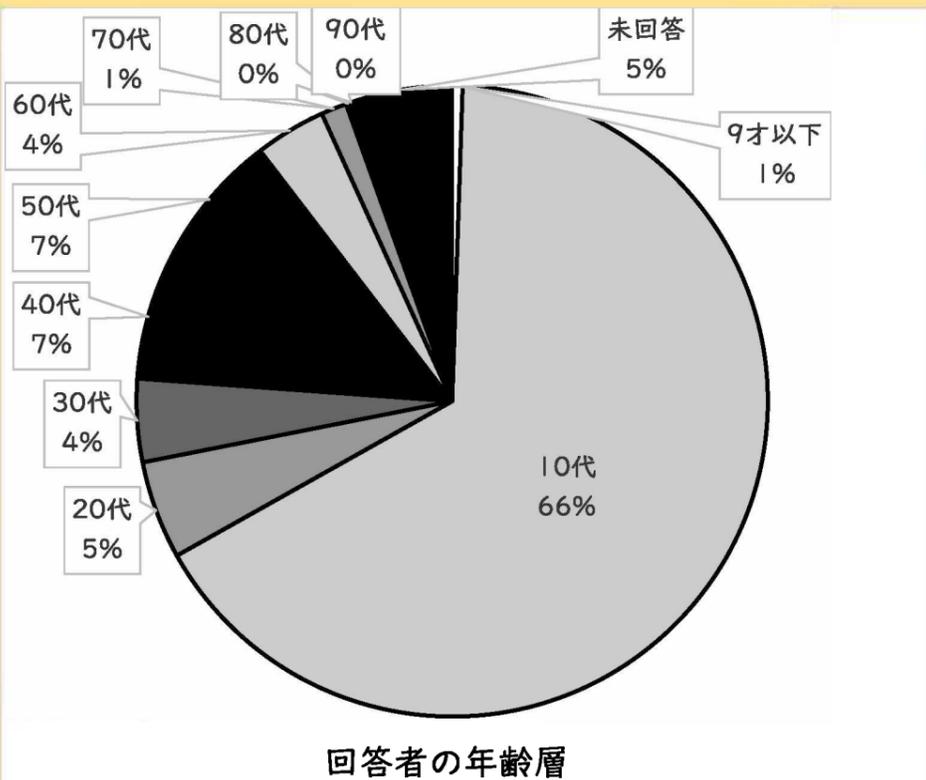
高知に自然史博物館をつくる会

アンケート調査 2025年1月1日～7月31日の結果

【高知県在住者の回答】

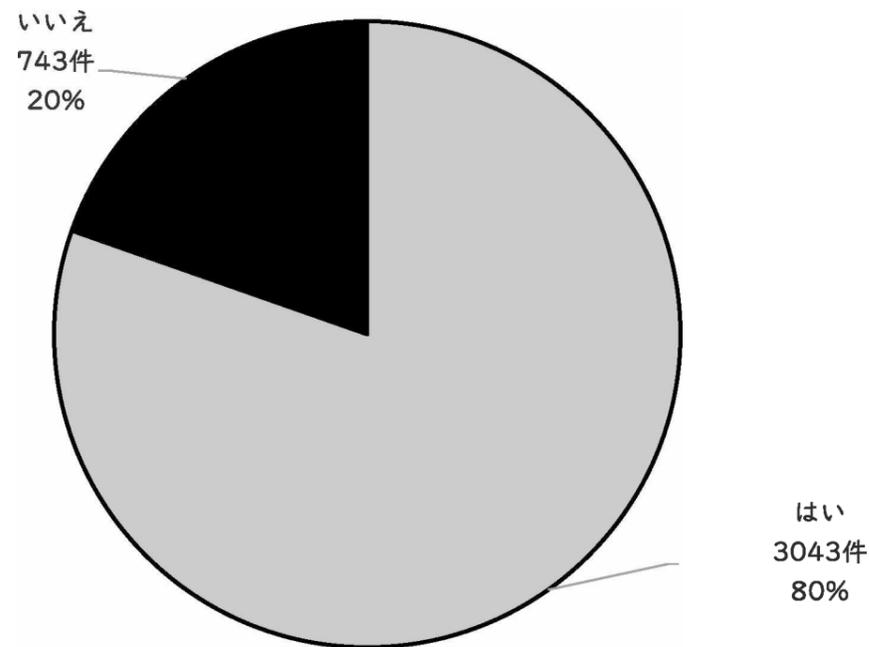


回答者のお住いの市町村

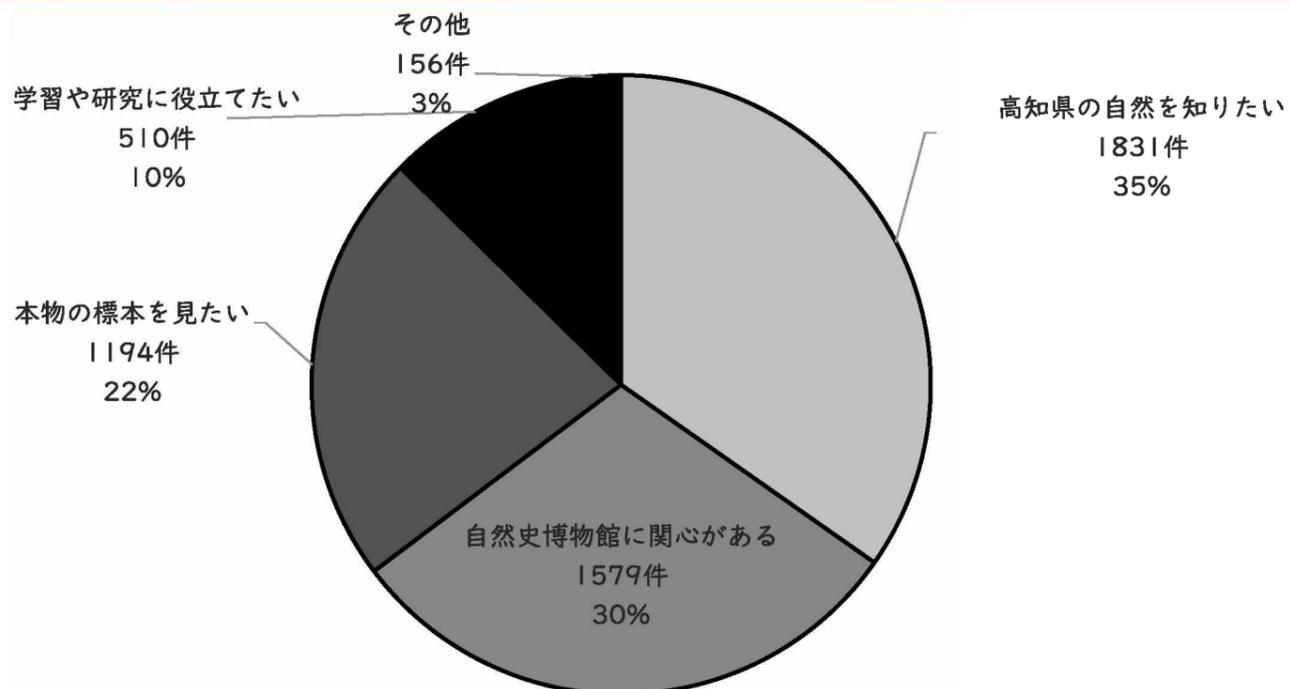


アンケート調査 2025年1月1日～7月31日の結果

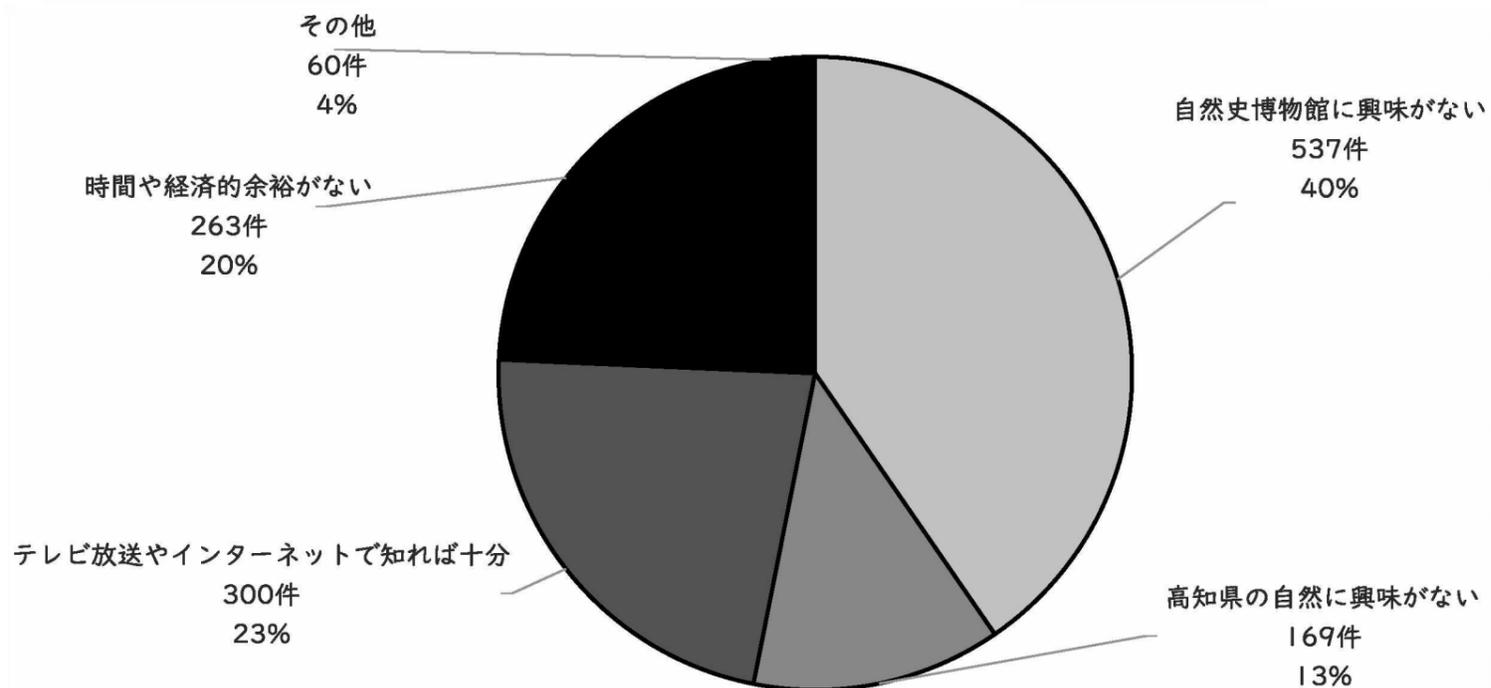
【高知県在住者の回答】



高知に自然史博物館ができれば、行ってみたいですか？



高知に自然史博物館ができれば、行きたい理由



高知に自然史博物館ができて、行かない理由

高知に自然史博物館をつくる会

アンケート調査 2025年1月1日～7月31日の結果

博物館ができたなら行きたい理由（自由記述）

- 絵を描くときに参考にしたい (中学生 高知市)
- 観光客が増えると思うから (中学生 香美市)
- 高知での遊びに行く場所の一つとして (中学生 南国市市)
- 高知に博物館が少ないから (中学生 高知市)
- 昔の生物をみてみたいです。 (中学生 須崎市)
- 植物や天気などに関心があるから (中学生 香南市)
- 高知をもっと発展させたいと自分も思っており、この様な新しい活動には協力していきたいと思うから (中学生 高知市)
- すごい興味があるのでぜひ作っていただきたいと思っています。デカくて楽しい場所になってください。 (高校生 高知市)
- 高知県のPRをどのようにしてるのかを知れるから (高校生 高知市)
- 家族と出かけるところがほしい (高校生 南国市)
- 県内の施設は知っておきたいから (高校生 四万十町)
- 高知は日常でも自然が美しいので博物館でもっと高知の魅力を知ってほしい (高校生 高知市)
- 高知県行く場所無さすぎて。 (高校生 南国市)
- 様々な知識を得たい (社会人 いの町)
- 友達と行くと楽しそう (高校生 高知市)
- 高知県は田舎で自然が豊かだから (高校生 香南市)
- 高知県は田舎で自然が豊かだからアミューズメント施設的な感じとして友だちといきたい。 (高校生 高知市)
- おそらく地球規模で環境が変わり、絶滅する生き物が出て来るのではないかと思います。その際にこの土地にこういう生き物が住んでいたと後世に残したい。 (社会人 四万十市)
- なんか面白そうだから。興味のある企画展とかを定期的にしてもらえたらもっと行きたい。 (高校生 高知市)
- 落ち着いて一人の時間を充実させられそう。 (高校生 高知市)
- アクセスがしやすい場所なら行ってみたいです。 (社会人 須崎市)
- 科学的な体験をしてみたい。 (社会人 土佐市)
- 我が子に自然や標本に触れる機会を作ってあげたい (社会人 高知市)
- 高知県に興味を持って来てもらうため (社会人 四万十町)
- 自然史を後世へ伝承することに重要性を感じるため (社会人 高知市)
- 世界中から見に来てもらいたい (社会人 香南市)
- 生物多様性こうち戦略をひろく知らしめたい (社会人 高知市)
- 高知県の観光活性化にも繋がる可能性がある (社会人 高知市)
- 先人や地域の高齢の方から無形・有形文化財を継がないと消えてしまうことに危機感を持っているから (社会人 高知市)
- 絶滅種も含めた生物を保存する意義はあるし、どのような固有種があるか見てみたい。 (社会人 四万十市)

博物館ができても行かない理由（自由記述）

- 標本に興味がない (高校生 高知市)
- 行くのがめんどくさい (高校生 高知市)
- 別に行く意味を見出せないから。 (中学生 越知町)
- 難しそう (高校生 高知市)
- 場所による (高校生 高知市)
- 家の近くにあるし、行く余裕がない (小学生 越知町)
- おそらく完成時には高知にいない (中学生 高知市)
- 行く気にならない (高校生 高知市)
- 私のような今どきの若年層には自然史はあまり受けない気がします (高校生 高知市)
- 楽しめる自信がない (高校生 高知市)
- できたらいいと思うけど、足を運ぶまでじゃない (中学生 高知市)
- 自然とかにまったく興味がないわけではないがわざわざプライベートに行こうとは思わない。もっと作るべきものがある気がする (高校生 高知市)
- 遠いから (高校生 宿毛市)
- 自分から知りたいと言う熱意がないため。 (高校生 高知市)
- よく分からないから (高校生 高知市)
- 家でゲームをしたい (高校生 土佐市)
- 外に出たくない (中学生 越知町)
- 具体的に何をやる予定なのか分からないため (高校生 四万十市)
- 自然を感じるのは好きだけど、まだ自然を学ぶ興味が無いため (社会人 越知町)
- 植物園とかとんぼ公園とか今も十分自然博物館が高知にはあるから。 (高校生 四万十町)
- 建築と管理に多大なコストをかける必要がない。 (社会人 高知市)
- 自然だけだとインパクトに欠けるから (高校生 須崎市)
- 何が展示されているかわからないから (大学生 高知市)
- もうすでに博物館はあります。子供と大人が共に遊べる公園開発に精力と税金を使ってほしい。過去に起きたことに目を向けるのではなく今現在生きてる私たちにもっと暮らしに役立てるような施設が欲しいです。 (社会人 津野町)
- 話が難しそう (高校生 土佐清水市)
- 高知に住んでいるので興味が薄い (社会人 高知市)
- そもそも自然史博物館というものが何か分かっていない (社会人 四万十市)
- 本物の自然に触れに行きたい。 (社会人 高知市)
- 内容次第 信憑性の高い、高知でしか見れない資料があるならば (社会人 南国市)
- おもんなさそう (社会人 大月町)

高知に自然史博物館をつくる会

こんな自然史博物館をつくったら・・・



MUSEUM of Natural History KOCHI

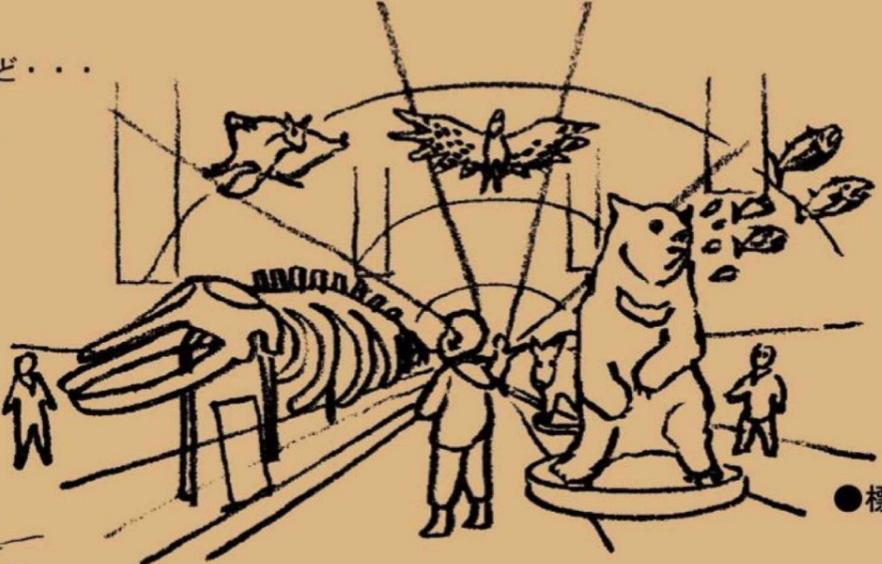
Natural History Museum of Kochi

高知自然史博物館

できたらいいな

日本にはいろいろな「自然史博物館」があるけど・・・

“南四国の自然”を伝える博物館がないんだよな～



● 標本を収蔵保管・研究し未来に伝える

● 高知の自然を紹介する常設展示や企画展を

“高知の自然”をミュージアムに!

● 野外調査を冊子にまとめたりトークイベントなどで紹介 etc・・・

● 観察会や標本作製講座を開いて博物館を支える仲間をつくる

自然史博物館について



アンケートに答えてね～



* Designed by 里見デザイン室 (令和6年度高知県豊かな環境づくり総合支援事業)



牧野植物園にある五台山パノラマ模型

こんな案はいかが?

牧野植物園がある五台山につくったら...

五台山へ行けば、南四国の自然が丸ごとわかる



動物公園入口から金剛山を望む

こんな案はいかが?

のいち動物公園の近くにつくったら...

南四国の動物のこと知りたければ、のいちへ!

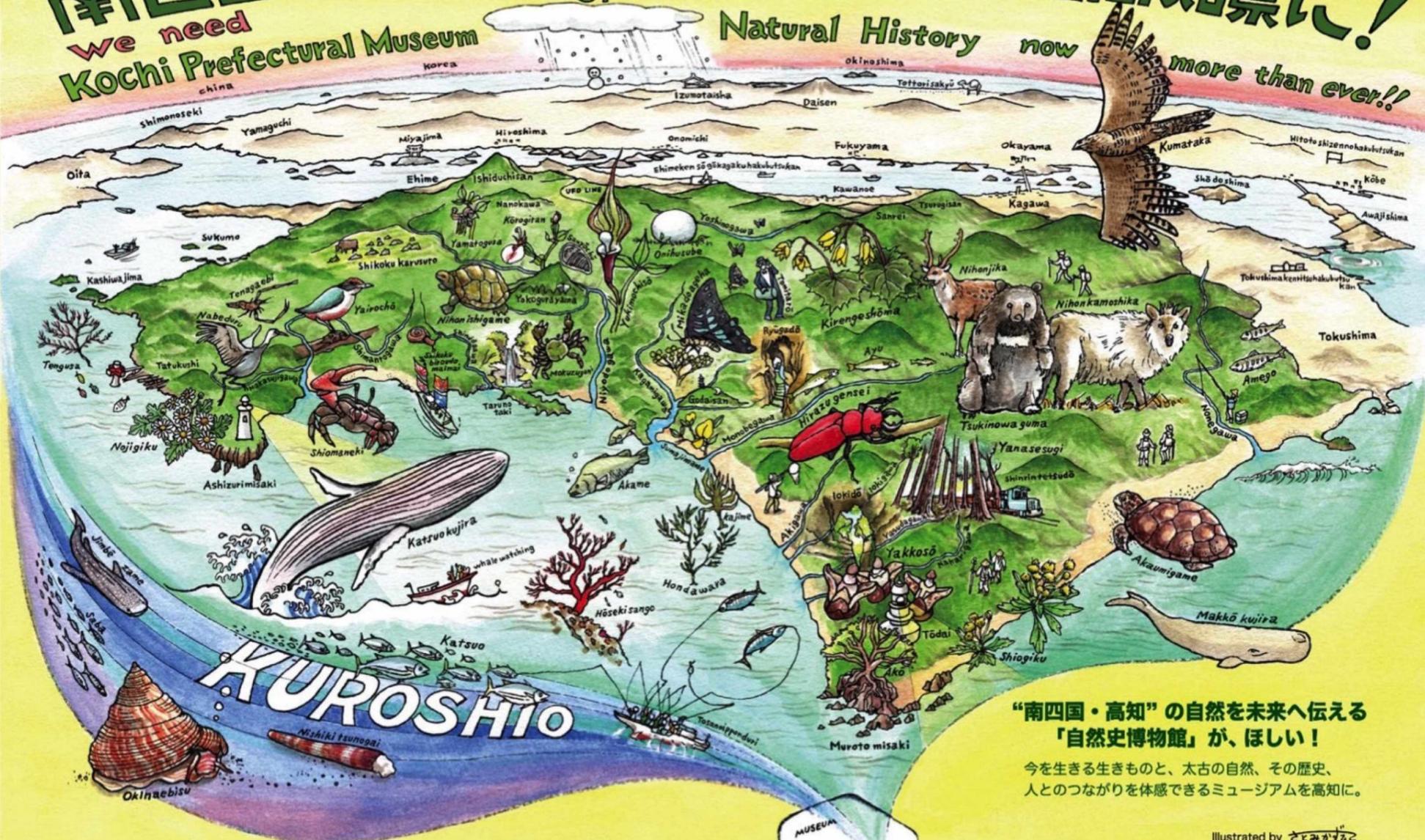
こんな自然史博物館をつくったら・・・

南四国の自然を体感するミュージアムを高知県に!

We need
Kochi Prefectural Museum

Natural History now

more than ever!!



“南四国・高知”の自然を未来へ伝える
「自然史博物館」が、ほしい!

今を生きる生きものと、太古の自然、その歴史、
人とのつながりを体感できるミュージアムを高知に。

Illustrated by さびみづな



こんな
案は
いかが?

【県立大学と県立自然史博物館】
高知工科大学の近くに自然史博物館をつくる
～物部川沿いに自然と文化を巡る～
高知龍馬空港～土佐山田駅～自然史博物館～
高知工科大学～森林研修センター～やなせたかし記念館～
龍河洞～のいち動物公園～のいち駅を、
周遊バスでつなぐ。

こんな
案は
いかが?

【ひろめ市場と日曜日と自然史博物館】
～高知の知と食の拠点～
高知のさまざまな食と高知人を楽しめる
“ひろめ市場”と“日曜日”。
その食と人とを支えているのが、
高知の豊かな自然です。
食と人と自然はつながっています。
だから、
ひろめ市場と日曜日のとに、
高知の自然を知ることができる自然史博物館を。

パネルはここで終わり
最後まで見てくれて
ありがとうございます

高知県の
やや東部地域の
賑わいに役立つ

そこへ行けば、
高知のおいしいものに
出会える

高知に自然史博物館をつくる会